



文化高知

No.159

二〇二一年一月

【もくじ】

- 2~3 泣いて生まれて笑って逝こう…昇幹夫
- 4~5 新春特別インタビュー…田島栄
- 6~7 二胡で上海万博公演…松居孝行
- 8~9 おびさんロードに店をオープンさせて…島村道子
- 10 言葉の現場から25「坊ちゃん」清との別れのなぞ…広井護
- 11 鉄道っておもしろい!(6)…大内雅博
- 12~13 高知市文化振興事業団12月の事業から
- 14~15 風俗歳時記・風伯

子どもから大人、若者から高齢者に至るまでのすべての人の文化を

(財)高知市文化振興事業団

表紙デザイン:「初春」-柳早貴

涙で生まれ、笑って逝く

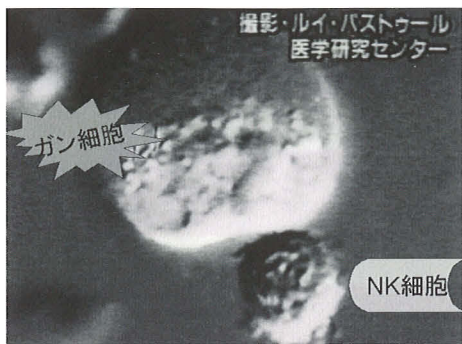
昇 幹夫

一〇一〇年十月には第七回いきいき百歳大交流会、また日本総合医学会高知大会と高知では二回も続けて講演をさせていただきました。その時お話しできなかったことを今回は書いてみました。

昨年夏は、暑かったですね。猛暑の中、あのアブラゼミがジージーと鳴くの聞いてると、余計暑苦しい感じになりました。そのセミだって、十年近く地面にもぐって出て夏になり、やっと地上に出てわずか一週間というはかない命を精一杯生きているのです。セミが一所懸命脱皮している姿、けなげですね。でもあの姿は、実は見てはいけぬ姿なんだから知ってましたか？ だって、これがほんとの『セミヌード！』

いかがですか？ これで笑った人はガン細胞を攻撃するリンパ球、NK（ナチュラル・キラー）細胞（天然の殺し屋の意味）が活性化したのです。という事実は、二十年前に大阪の吉本興業の本拠地ならば花月で実験し、それ以来、我々は吉本興業を健康産業だと自負するようになりました。

昨今、二人に一人ガンになる時代



NK（ナチュラル・キラー）細胞

です。今ガン患者でなくても、近い将来その仲間に入ると思ってた方がいいのです。だって、毎日五千個のガン細胞が発生していますから、あなたが知らないだけでガン細胞は全ての人にあるのです。でもNK細胞（図）を中心とする免疫細胞群が、そのガン細胞を日々処理してくれているから元気でいられるのです。

すなわちガンとの共生というのが本来の姿で、老衰で亡くなった方を解剖させていただくと八割もガンは見つかります。早期発見すれば助かる

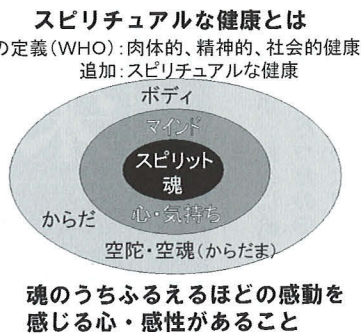
が、日本からハワイ、アメリカ本土にいった移民の方々です。糖尿病は三倍、高脂血症が五倍というのはそういうことです。フードは風土という言葉があります、考えてみたら伝統的な和食こそ日本人が一番ふさわしい健康食だったわけですね。そして美味しいとこだけつまみ食いするのではなく、胚芽も入った玄米、刺身という部分食よりも小魚丸ごとという全体食をすると栄養が偏ることはありません。そのうえ、消化酵素は一生に使う量が決まっているといわれ、たくさん食べると早く無くなるので短命です。少食にするとうまく生きる理屈ですね。だから少食になればなるほど質のよい食品を選ぶ必要があるのです。

動物のエサは本来ナマです。しかし、中華料理や洋食にはナマはあまり多くありません。ナマが一番多いのが和食。和食がヘルシーと言われるゆえんはここににあります。でも和食の定義という意外に難しいですね。トンカツは洋食ですが、トンカツ定食にするとはんと味噌汁が付いて和食みたいですね。するとウナギはどちらでしょう？ ウナギはやっぱりなヨウシヨクですね。天然もののウナギなんて食べたこと無いでしょう（笑）これでまたガン細胞が百個消えましたね。

ナマのものの中には生きた酵素がたくさんあります。大根おろしには

ジアスターゼという消化酵素があるので、これを食べると自分の酵素を節約できます。パイナップルには強力な蛋白分解酵素があるので、食べ過ぎると舌の表面に潰瘍ができて痛いのです。だからステーキの上のパイナップルがのっけるといっても消化を助ける合理的な組み合わせなんです。少食にするとも酵素も節約できるといこともガッテンしていただきましたでしょうか。

最後に味は何で決まると思いませんか？ 銘酒でも相手が悪ければ悪酔いしますね。鯛もひとりはいまからず。誰と食べるかで味は決まるのです。詳細は拙書『食と笑いと健康と』（芽ばえ社）をどうぞ。



魂のうちふるえるほどの感動を感じる心・感性があること

人の心の奥にはスピリット（魂）、その外にマインド（心・気持ち）、さらに外側からだがあります。か

と日本対ガン協会はPRしています。発見できるサイズは一cm角の大きさで、一つのガン細胞が百日に一度分裂して増殖します。お米一粒が最初のガン細胞だとすると、九年後は六〇kgの米俵三五〇個積み上げた大きさにもなります。

ガンの問題点というと転移ですね。胃ガンの場合二cmになると急速に転移が起こるといわれます。一つのガン細胞が一cm角になるまで九年かかるとすると、一cm角が一〇cm角になるにはわずか二年半です。ガンの原因は悪い生活習慣ですから、長年睡眠不足・不規則な生活・過食・多食を続けていると免疫力が低下して一気にガン細胞が増大してしまします。六〇兆個の細胞からなる体は毎日一兆個ずつリニューアルされます。リニューアルしない永久細胞が心臓と歯です。ですからこの二つにガンはできません。他の臓器は、全て毎日新しい細胞に置き換えられますが、その時間帯は睡眠時間です。だから慢性的な睡眠不足になると不良品としてのガン細胞がたくさんできます。睡眠不足になるとすぐ風邪をひくのは免疫力が低下したからです。同様

に、毎日五千個も作られるガン細胞を処理する免疫力が低下して、ガンが大きくなるのです。頑張りすぎが原因というのはそういうことですが、ガンの原因としては二割に過ぎません。三割を占めるのが食、特に食い過ぎです。

食は呼吸と同じくらい大切です。車で考えてもらいなさい。車が走るには酸素とガソリンが必要ですが、ハイオクと粗悪な油とではカロリリーは同じでもそこから出る老廃物の差はとてつもない差になると思いませんか。だから、食い改めて穀菜人になることをおすすめします。というのは、遺伝子が全て解明された結果、白人と日本人は同じではないことがはっきりしています。我々温帯に住む者は穀類と豆が主食、南はイモ、北は酪農と小麦でした。我々は何度も飢饉という体験を経て飢えに強い飢餓耐性遺伝子を獲得しました。白人は乳製品という保存食で冬はしのげるので、この遺伝子はありません。現代の日本では高カロリー、高脂肪食になり、少ないカロリリーで生きる遺伝子をもった体には耐えられなくなりまし。先にそれを体験したの

らだはその昔、空陀、空魂とも書いたのです。だからスピリット、マインドが変わると体は変わりますよ。

(図) 百歳からでも人は若返ります。魂の打ち震えるような感動を絶えず体験している人はトシをとります。魂の打ち震えるような感動を絶えず体験している人はトシをとります。魂の打ち震えるような感動を絶えず体験している人はトシをとります。

わかりやすいといえば、ワクワクドキドキですね。あなたの日常に、今、ワクワクドキドキがありますか？ 若い時、いい人に出会ってワクワクドキドキ、あれから四十年。今では不整脈ですか？（笑）あなたの年齢は暦年齢プラス三十八億年というのが正しいのです。どこが欠けたらもういいのです。その間、百年に一度の大変なことは何度もあったに違いありません。でもそれを乗り越えたからこそ今があるのです。大変という字をよく見てください。大きく変わるといふ字です。これまでの生活を大きく変えなさいよというメッセージと捉えてください。明るい情報だけを頭にインプットして実行すればガンとの共生はでき、健康やかに老いることができますよ。

前述の少食、よい睡眠、それから一日一回大笑いすることです。大笑いが免疫力を活性化することは最初に述べたように、大阪の吉本新喜劇の実験で我々が証明しました。また泣くということもNK細胞を活性化し、涙の中にストレスホルモンが排出されすっきりすることが分かっています。

す。泣くときはシクシク、つまり四×九で三十六、笑うとハッハッハ、八×八で六十四、合わせるとちょうど百ですね。泣いて笑ってちよつとだけ笑いが多ければいい人生だったと思いませんか。

ユーモアのセンスを磨くとガン細胞が一cm以下の小さい段階でNK細胞が処理してくれるので平和共存できます。だからこそ、《にもかかわらず笑う》ということが大事です。景気のいい時に笑うのは当たり前。大変な時代にこそ笑うが必要で、ネアカであり続けることは強い意志を必要とします。私の新刊『泣いて生まれて笑って死のう』（春陽堂）には私の講演CDも付いています。読んで人だけ元気になること間違い無し！ これからはガンとの共生、これが常識になるでしょう。

のぼり みきお

一九四七年 鹿児島生まれ
九州大学医学部を卒業後、麻酔科、産婦人科の専門医を経て、一九八二年より大阪在住。現在は、大阪市で産婦人科診療をしながら、日本笑い学会副会長、「元気な長生き研究所」所長として全国で講演中。
ホームページ「スマイルののぼり」
<http://homepage2.nifty.com/smlieno/boiri/>

新春特別インタビュー

田島 栄



謎のベレー帽 おじさんとの出会い

——田島先生といえば、県展の絵画部門で三回特選をとり無鑑査になら

れていますが、最初に絵をはじめたきっかけは何だったのでしょうか。

絵を本格的に習い始めたのは教職についた二十五歳の頃。教員になって初めて油絵の具を買えるだけの経済力がついて、当時先輩だった矢野川瀧男先生に木炭デッサンを習ったのが最初ですね。けど、子供の頃から絵は好きでね。ある日、池のほとりで絵を描いてたらベレー帽のおじさんがやって来て、「絵はこうやって描いたらいいわや」言うてささーと僕の目の前で描いてくれたんです。それまで絵は、どうやって描いたらいいか分からなかったが、その絵の描き方を見せてもらって、これやったら誰でも描けるようになると思ったんですよ。そこからですね、美術の成績は五ばかりでした。やりだし

たら夢中になるタイプだから、そこからどんどん絵にのめりこんでいった。この時の出会いをきっかけに、僕の絵の教え方は目の前で絵を描いて見せ、分かりやすく示す方が良いと思って教えている。

——のめりこんでいった結果、先生の代表作である《同時多発視点による写実論的〇〇》という手法が生まれたわけですね。

そうですね、正直、僕が無鑑査になれたのはそれだけだと思っている。この手法は、半年間、筒井広道先生のもとで勉強させてもらった時に身につけたものでね。筒井先生が影響を受けたピカソの絵に似て、「面を分解して組み立て直す」組み立て直す時に視点をどこから見てもかわらない」という手法なんです。こういう手法で描かれた絵のことをいっしょにキュビズムと呼ぶようになってね、約三十年前にこの手法で初めて県展で特選をとったんです。

その後、賞をとれてたんですけどね、これから絵を目指す以上は、しっかりと見たものを描けるという力も養わないかんと思うて、キュビズムからいわゆる写実に切り替えたいんです。それで、写実をやりゆううちに

——二十二年も無風の時代があつて絵をやめようと思ったことはないですか。

絵をやめようと思ったことはないですね。絵は死ぬまで描き続けたいと思ってる。偉そうだけど長い間やってると、最近、県展の特選のレベルが見えてきた。今は、毎年でも特選をとる自信がある。それぐらい自分の絵に対して自信が持てるようになってきてる。これはちよつとぬぼれみたいやけどね。

けどね、先日東京で二紀展と独立展を見てきて、そういう鼻っばしらをへし折られた気分やった。やっぱり上には上がおるな、すごいな〜と思って、また張り合いが出てきて良かったと思ってる。

絵より空手

——絵に没頭してきた人生の中で、一番嬉しかったことっていうのは、やはり特選をとられた時ですか。

初めて特選をとった時のことはよく覚えてる。はじめ、新聞紙面の入選の方から見ていきよって名前が無かったとき、あー落ちたかーと思ひよつ

たら：あれー、上の方に名前があるじゃか、急いで階段を上がってぐーぐー寝よつた妻を起こしたちや。けどね、それよりも嬉しかったことはね、高知県で二番目に空手の七段をとった時かな。あの時は嬉しかった。明るる日、目が覚めたら世の中明るかったもんね。光線が普段より明るい感じ、言葉では表現できないくらい嬉しかった。空手も夢中になつたな、腰を壊してからは遠ざかったけど。今夢中になつてるのは絵だけやね。

——田島先生の今後の目標を教えてください。

目標、ん〜小磯良平大賞展みたいな一千万円ぐらい賞金のかかった展覧会で賞金をとってみたいな〜と思ってる。それと、なによりもやっぱり仲間にも県展で賞をとらせてあげたいかな。

——仲間といいますと。

僕は自分がやってる絵画教室に来てくれている生徒さんのことを仲間と呼びゆう。その仲間、賞をとってもらいたいね。まだ、県展で特選をとった人はいないけど、褒状をとつ

た人はいるんですよ。教室では二時間ぐらいしか教えてないし小さなサイズの作品しかできん。そうすると家でやるしかないでしょ。家でやるしかないというところは、結局教室で教えたことが伝わりゆうかなという感じがして嬉しいんですよ。

——最後に、若い人たちへメッセージをいただけませんか。

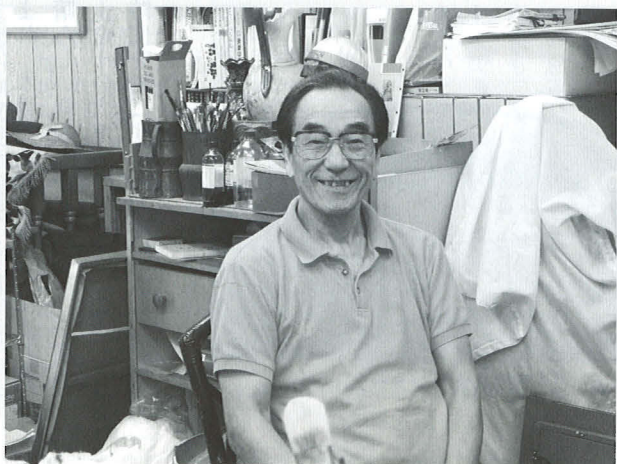
メッセージなんて：、僕は伝えたことは教室で全て伝えている。絵についての講義をする人ってあまりおらんと思うけど、僕は絵についての講義をするんです。そこで、僕の経験や技術などを隠し事せずに、全部全力で伝えています。

——ありがとうございます。この後、田島先生のアトリエを覗かせていただきました。年に一回ぐらい会うお孫さんがかわいくてたまらんと、今はそのお孫さんを同時多発視点による写実論的に描いていました。ちなみに、自宅に併設してある「カフェギャラリー（異空間）」では、無料でギャラリーを貸し出ししています。皆さん、ぜひご利用してみてください。（高知市天神町一〇一六／八三二―一五三二三）



キュビズムの時代が去ってしまつてね、同じもの描いても賞に入らなつた。かといって写実を描いても賞に入らなくて：。キュビズム描いたり写実描いたり迷いに迷つて二十二年目にあたる年に、ついに出品した展覧会五つぐらいに全部落選してね（笑）。そこでさあ何をやるべきか考へた時、人がやってないことをやらなかんというのでは分かつていて：。さらに今までになかつたものを生み出さなかんって思ひよつてね、二十二年間やってきたキュビズムと写実を合体させてはどうかなあ、ということをおもひついたので。これで二十三年目に、上野の森美術館大賞展で入選したのを機に、県展でも特選がとれましてね。その後徹底的にこの手法を続けて四年後にまた特選がとれて、無鑑査になつたわけです。

●同時多発視点による写実論的〇〇によって描かれた作品

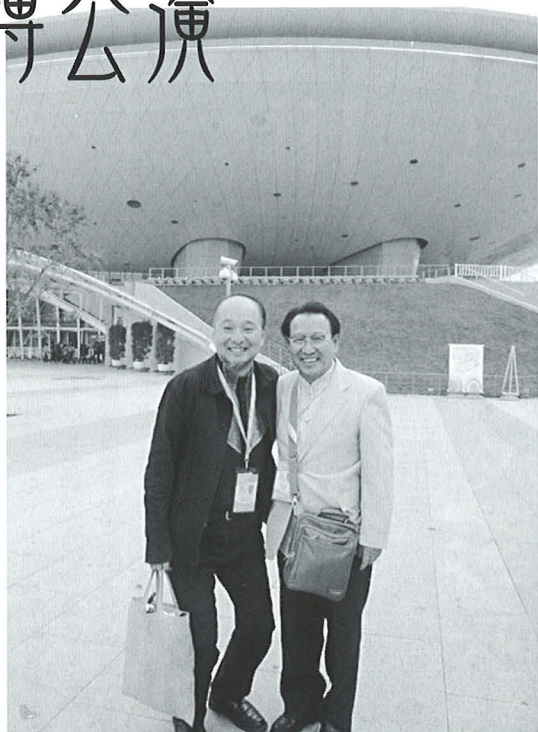


たしま さかえ

一九三六年 高知市生まれ
小津高校を卒業後、三年間映写技師として勤めた後、高知大学農学部林学科へ入学、同学科を卒業後、お兄さんの薦めて教師に。現在は、教職を離れ絵画教室の講師などをしてる。

二胡で上海万博公演

高知県立岡豊高等学校
音楽教諭 松居孝行



左が筆者・右が趙景明（ちょうけいみん）老師

◇趙景明老師との出会い

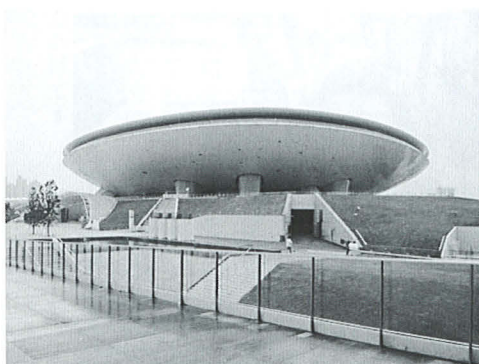
私が中国伝統楽器「二胡」を手にして約八年になります。それまではクラシックギター中心の音楽生活でしたが、原因不明の手の疾患により、数年に渡り病院巡りをするも回復の兆しはなく、やがてギター演奏を休止しました。その後、音楽生活の新たなパートナーとなったのが二胡でした。もちろん二胡もギター同様、手で奏でる楽器ですが、幸いにも音楽の神様は、私に二胡を弾ける手を残してくれました。しばらく独学の後、高知市在住で中国遼寧省出身の

二胡奏者、趙景明（ちょうけいみん）老師（老師は訳すと先生）との運命的な出会いがありました。老師とは初めて顔を合わせた時から「初対面の気がしない」との嬉しいお言葉、私の父親と偶然にも同い年、二胡の世界では数少ない男同士、互いに日本語、中国語が片言ながらも、漢字の国同士の筆談等々；親しくさせていただくまでにそう時間はかかりませんでした。老師からは、二胡の楽しさ、奥深さ、生涯をかけて探求するだけの魅力を今もお伝授していただいています。

◇「二胡縁2010」参加

さて、この度は、私が所属する日本二胡界最大の組織「日本二胡振興会」による「二胡縁2010」という、日本在住二胡奏者及び愛好家約百名が参加した中国ツアーが行われたことについて筆を執らせていただきました。高知県からは、趙老師をはじめ、私のほか、門下生七名が参加し、杭州公演（十月二十四日）と上海万博公演（十月二十五日）の二つのステージに立ちました。このツアーの最大の目的は、二胡を通じた日中交流です。

まず、二十四日の杭州公演は、当



「万博文化センター」

日の朝、驚くような連絡が入りました。それは、九月の尖閣諸島の漁船衝突事故を発端とする、中国内陸部で頻発する反日行動が杭州でも懸念されるため、主催者側から公演中止をという連絡でした。それは、安全措置としての苦渋の判断であり、出演者一同落胆の色を隠すことができませんでした。それでも、日本二胡振興会事務局により、地元杭州の劇場にて中国民族楽団との交流会が急遽設けられました。そこでは、楊琴、琵琶などの民族音楽家との共演に恵まれ、本場仕込みの方々と交流し素晴らしい経験となりました。公演中止を十分穴埋めするだけの充実した時間を過ごすことができました。

そして、二十五日はいよいよ夢の大舞台、上海万博です。会場内は、世界中の観光客で溢れており、閉幕間近ということでのこの日の入場者数は百万人を超えるとも言われていました。その規模は想像を遥かに超える圧倒的なものでした。実は前日の夜、公演時間が予定より一時間早まり、演奏会場を「アジア広場」から「万博文化センター」へ変更するという連絡が入りました。複雑な情勢は上海においても避けることはできないと感じました。更に当日朝には耳を疑うような連絡が入りました。それは、本会として約一時間半予定していたプログラムを三十分程度に縮小しなければならぬという連絡でした。これも杭州同様、安全面の保証ができないとの万博局からの理由で、あまりの急な事態に困惑しました。それでも出演者一人ひとりがこの困難な情勢を冷静に受け止め、舞台本番に向け最高の演奏をするにとだけに集中しました。幸いにも、高知県関係者は予定通りの曲目が演奏できましたが、その一方で、この日のために準備してきた曲目を演奏することなく上海を後にしなければならぬ複雑な心境で万博公演を終えました。それでも、私個人としては、



緊張感溢れるステージの中で、趙老師とのデュオで「早天雷」、選抜メソッドによる合奏で「北京有個金太陽」、「賽馬」等の名曲を本場中国で演奏できたことは、生涯忘れられない音楽人生の宝物となりました。また、今回の中国ツアーで限られた時間ではありましたが、杭州で雑技等の舞台鑑賞、西湖遊覧、お茶の博物館、上海では豫園商場などに足を運び、歴史ある中国文化の魅力を垣間見ることができました。そして、急速な経済成長が進む国らしく、街の圧倒的な規模や勢い、そして人々の弛まぬ向上心や底力は今の日本にはない迫力を感じました。

◇二胡界発展に向けて

尖閣諸島での漁船衝突事故以後は、上海万博においての日本館を除き、予定されていた日本関係の公演やイベントが相次いで中止となりました。我々も中国入りしてから情報が二転三転し、「もしかしたら何も演奏できずに日本に帰るのか」とまで思える情勢でしたが、日本二胡振興会事務局の粘り強い働きかけにより、辛うじて公演が実現しました。実は、本会の事務局長は日本在住の中国人であり、日本二胡界発展の為に日々地道な活動を続けられています。また、二胡という素晴らしい楽器を日本人に教えてくれたのも、趙老師のような中国人です。このような善意ある中国の方々には、これからも我々日本人にとってかけがえのない存在となるでしょう。

そして、我々庶民が今、日中問題でできること…それは、たとえ小さな民間交流でも、地道に継続していくことだと思います。また、今後の二胡界発展においては、伝統的な部分を大切にしつつも、日本人のような外国人の手により、作曲や編曲などで新たな音楽世界を開拓し、二胡の可能性を更に大きく膨らませてい

くことが大切だと思います。このよう新たな可能性の発見は、二胡の進化のきっかけになるとともに中国への恩返しにもなると信じています。今後も二胡への想いを大切に、私としてできる芸術性を探究し続けていきたいと思っています。

まつい たかゆき

一九七〇年 高知市生まれ
エリザベト音楽大学大学院音楽研究科修士課程を首席で修了。
第一八回日本ギターコンクール、第九回スペインギター音楽コンクールなどで優勝。国際ギターコンクールの審査員を歴任、音楽専門誌等執筆。「荊燦馮」のペンネームで作編曲活動を行い、若手演奏家へ楽曲提供の他、テレビ番組のテーマ音楽を手掛ける。現在、高知県立岡豊高等学校教諭、ギター部顧問として「松田弦」、「いちむじん」など多数のプロギタリストを輩出。（社）日本ギター連盟正会員、日本二胡振興会正会員。二胡を趙景明氏に師事。

おびさんロードに 店をオープンさせて clara craft

島村 道子

昨年の夏はことのほか暑いあついで日々でした。早くこの暑さから逃れたい、一日も早く秋を感じたい、そう願いながら九月二十三日、おびさんロード商店街に、作家版アンテナショップを開きました。手作りで物を作るのが大好きな私は、自然と物を作る人へと目がむき、物作りをしている人たちとの輪がすこしづつ広が

最近、おびさんロードってどこ？と聞かれることもありましたが、私自身がおびさんロードについて知っておかなければと、商店街に古くから居られる方や、事務方をされている人に街の成り立ちを伺ってみました。

電車通りと帯屋町の間にあって、裏通りのイメージしかなかった通り道が、平成七年に生まれ変わりました。電柱や電線、アーケードもなく、空の見える石畳みの道にヨーロッパ調の街作りが演出され、人々の心に何か楽しい期待感を抱かせてくれました。街路灯の光は、夏は涼やかに、冬は暖かみのある光にと、工夫を凝らしています。高くてかく伸びたケヤキの並木道は、やっかいものとみられることもありますが、私はとても良いと思います。

おびさんロードについて夢がいっぱい散りばめられたロマン溢れる詩を紹介させていただきます。平成十年年度の「中小商業活性化助成事業」事業報告書に掲載されていたものです。

心とけあう街へ 夢物語 続きます
人が集う広場
人生の大切な儀式の舞台！。

がってまいりました。無意識に過ごしていた私の日常の中で、作家さんと出会う店、作家さんの発信の場所ができたらしと思いついたようにになりました。そして、昨年、その想いを形にすることが出来たのです——「clara craft」（クララクラフト）。クララは、作曲家ロベルト・シューマンの妻の名で、その響きと人間性に惹かれ、クラフトは、手作り・工芸等の意味を持ち、お店のシンボルマークであるうさぎは、家族に六人もうさぎ年がいる縁もあって、と私の好きなものを集めてみました。

前述の作家版アンテナショップというネーミングは、新聞記者の方が記事としてまとめ紹介してくださいました。短い文面の中にも出品業種を挙げてくださり、秘芸の意図が皆様に伝わるものでした。この記事を見たと言ってご来店くださった方も少なくありません。多くの皆様のご支援あってこそ、発案から三ヶ月でオープンすることが出来たのです。長い間、空き店舗だった今の店の掃除をしているうちに、ふと思いつき、知り合いの家具屋さんとの雑談から出発したものですから、何もか

おびさんロードは
南国の陽光ともれびあふれる街
並みに

「おびさん」らしさをちりばめ
たくさん表情を見せて来ました
店と店、人と人が
街という名のもとにひとつにつな
がり

初めて出会う人どうしも心とけあつて
時間、空間、感動、ときめきを共
にしながら
夢物語はこれからも続きます

以前は、夢をいっぱいのせた楽しいイベントも催されました。カーギャラリー、ミニ絵金祭り、星空のしたの映画祭、等々、これからのおびさんロードはどのような展開があるのでしょうか。個々の店の努力が大切だと思われま

さて、私共の店「clara craft」に置いてあるものは、すでに作家さんとして活躍されている方や、ご自身の世界にひたり自分で創りたいものを作っている職人さんなど、どれも美しい手仕事です。量産されたものではなく、生活の周辺で大切に使われてゆくものを並べて

もが急進。だからこそ出来たと言えるかもしれません。

七十歳を過ぎた私が何か新しいことを始めるなどということは、私の描いていた晩年の過ごし方ではありませんでした。残り少なくなった時間をどのように使うかは常々思っておりましたが、まさかの晩年となりつつあります。

平成二十二年の一月は大切な師や友人を失くした悲しみの年明けだったので、先に逝ってしまった三人の方達から私が受け継いだものは《誰もやらなければ私がやる》、《大自然流に生きる》という精神でした。なかでも土佐山内家宝物資料館の元館長で寺田寅彦の第一人者として知られる山田一郎先生は、「あなた、おやりなさい。何でも早い程いい、まだまだこれからだよ」と、いつも言ってくれました。九十歳から七十歳への伝言です。

おびさんロードを一緒に歩いた時、「この街はもつと文化度の高い通りにしなければ」それが先生の口癖で何度も言われたことでした。私が、「もしかしてこの店が使えるようになるかもしれません」と申しますと、先生は大そう喜んで、私は先

います。作った人も買った人も喜んでくだされば、私共とても嬉しく思います。

少量しか作れないものを販売する場所は限られているかもしれませんが、作品と作品が寄り添って、生活感も

生に「では寺田寅彦の部屋とエッセイストクラブを作って、美味しいコーヒーを飲む場所にしましょう」と言っていました。

本当にそれは私のたった一つの夢であり、ただ一度だけ先生を喜ばせることの出来た一瞬でもありました。先生にこの店を見ていただけなかったことはとても残念ですが、新たな出会いが始まり、街並みに一つ灯をとますことが出来ました。これも私の喜びとなりました。開店してまだ間もないですが、立ち寄ってくださいお客様は、まずまずの出足でほっとしているところです。



生まれ、一緒に楽しめる店となりたく思っています。おびさんロード作りを心がけて参りますので、どうぞよろしく御願致します。

clara craft
〒780-0870 高知市本町 2-1-31 tel.fax.088-855-6581
OPEN 11:00 CLOSE 19:00 定休日 水曜日



「お針の会」を設立し、手作り雑貨等を作つてこどもの図書館恒例の「としよかんバザー」に提供するほど、手作りで物を作るのが大好きな主婦。

横田章展



2010年1月19日(火)から24日(日)に行われた第5回美術作品コンクール *Concours des Tableaux* 最優秀賞受賞者の横田章さんの個展が、同年12月7日(火)から12日(日)の約1週間、市民ギャラリー第5展示室で開催されました。

タイルやトタン、床板などにアクリル絵の具で描かれた風景は、作家自身の過去の記憶から紡ぎ出されたもので、不確かな記憶と柔らかな風景が重なり懐かしく優しい空間を創り出しています。

どこか自分自身の記憶とも重なるかのような不思議な空間に、通りがかった方がふと足を止める。そんな魅力ある展覧会となりました。

お知らせ

投稿者(執筆者)大募集!!

文化・芸術に関すること高知に関すること何でもOK!

あなたの想いを本誌に掲載してみませんか?

掲載希望者は、下記までご投稿ください。あなたの想いをお待ちしております。

※内容により掲載いたしかねる場合もございます。ご了承ください。

<詳細>

文字数1,000~2,500字程度の文章で、PC・手書き、縦書き・横書き問わず。

投稿希望者は、①郵便番号②住所③氏名(ふりがな)④年齢⑤性別⑥職業⑦電話番号

をご記入のうえ、下記宛先までメールもしくは郵送にてお送りください。

誌面に使用したい画像等もありましたら一緒にお送りください。

※原稿はお返しできません。掲載の際は、規定の原稿料をお支払いします。

<お問い合わせ・お申し込み先>

〒780-8529 高知市九反田2-1 (財)高知市文化振興事業団「文化高知」係

TEL: 088-883-5071 FAX: 088-883-5069 E-mail: kikaku@kfca.jp

今年<2011年(平成23年)>は表紙のデザインを一新してみました。
国際デザイン・ビューティカレッジの学生さんによる斬新なデザインで、毎号季節にちなんだ表紙を飾っていただく予定になっております。ご期待ください。

市民学校作品展

平成22年12月7日(火)~12日(日)、かるぽーと7階市民ギャラリー第1展示室で「市民学校作品展」

を開催しました。市民学校では毎年春と秋に、料理や体操やコーラスなど約30の教室を開講していますが、その中でも作品を作り上げる教室を対象にした「市民学校作品展」を毎年開催しています。今回の作品展には、和紙ちぎり絵、フランス刺しゅう、銀粘土クラフトジュエリー、組紐、パッチワーク・キルト、陶芸、絵手紙、竹細工、編み物、日本画の全10教室から受講生171人が約1,000点の作品を出品しました。

会場には繊細な手仕事がかがえる作品や自由な感性が発揮された作品など、多彩な作品がずらりと並び、訪れた方たちはその完成度に感心しながら熱心に見ていました。また、出品した受講生たちが作品を作る時の工夫や喜びなどを楽しそうに話しながら見たり、作品を前に記念撮影をしたりする様子も見られました。

会期中は、展示作品を見て興味を持たれた方から市民学校についてのお問い合わせも多くいただき、教室のPRにもなりました。



♪♪♪♪♪

12月8日小ホールにて「ワールドミュージックナイトvol.6」を開催しました。

この催しは市民有志により結成された「国際的な音楽交流を中心に高知を楽しくするプロジェクト」による取り組みで、世界の音楽と料理を楽しんでもらおうと2008年より開催しています。

毎回趣向を凝らしたテーマで開催するこのイベントですが、今回のテーマは「フォーマル」。お客さまにオシャレをしてもらい、おいしい料理と素敵な音楽で特別な時間を過ごしてもらおう!ということで、まずはスタッフからドレスコードを設定し、お客さまをお迎えしました。

出演は地元演奏者がアカペラグループ、アースデイズシンガーズの皆さんと、ピートルズ倶楽部バンドの皆さん。そしてメインアクトにアメリカの女性ジャズシンガー、ダイアン・ハブカさん率いるピアノトリオをお迎えし、彩り豊かな演奏を行いました。

この公演日、12月8日は、ジョン・レノンの30回目の命日でもあります。そこで、ピートルズ倶楽部バンドはもちろんですが、アースデイズシンガーズ、ダイアン・ハブカさんにもジョンの曲を演奏してもらえようリクエストしました。

さまざまなジャンルの演奏家が、ジョンの残したメッセージを紡いでいく、すばらしい時間をここ高知でも作れたことは非常に意義があったと思います。

それぞれに熱のこもった演奏を行い、最後はダイアンさんによるアンコール曲「ホワイトクリスマス」。少し早いクリスマスプレゼントを満員の聴衆にお届けしました。

World Music Night vol.6

演出家養成セミナー

「演劇大学 in 高知」

演劇界の第一線で活躍する日本演出家協会所属の演出家を講師として、演劇に関するワークショップ等を開催します。実技を中心に「シノザキシステム」や「シアターゲーム」、「ミドルエイジへの演劇」など複数の演出家の指導を受けて、演劇を学んでみませんか。また「劇場法」についての講座も設けます。

- ◆日時：平成23年2月19日(土)～20日(日)
2日間で8つの講座を開催します(一部18日(金)スタート)
 - ◆会場：高知市文化プラザ大ホールおよび公民館
 - ◆講師陣：篠崎光正氏、ふじたあさや氏、流山児祥氏、高都幸男氏、大杉良氏、大和滋氏
 - ◆参加費：1講座につき 一般1000円・学生(大学生以下)500円
※一部無料講座あり
 - ◆申込方法：電話、FAX、メールまたは窓口(高知市文化プラザ8階)で受け付けます。
- 詳しくは事務局(高知市文化振興事業団)までお問い合わせください。
TEL: 088-883-5071 FAX: 088-883-5069 E-mail: kikaku@kfca.jp

主催◆日本演出家協会・演劇大学高知実行委員会・財高知市文化振興事業団
共催◆高知市文化プラザ共同企業体

風俗

戸惑うアウトサイダー

いつの間にか「高齢社会」の問題は、ひとまず自分には無縁だと高をくくっていったように思う。
このくちの歳になると、友人も知人も、隣り近所の知り合いも先に亡くなってしまふ。そうして日常的な話し相手がいなくなるこの重大性に気づいていなかった。その上、今夏の異常気象のせい

高齢者の一人暮らしが増え、人知れず亡くなったり、要介護者の火災死など、広がる日本の「無縁社会」、というような番組が、確か二〇一〇年初めに放送されていたように記憶している。
百歳近くになる老親を抱えているが、病院には眼科に行くくらいで、新薬はいっさい飲まない極端に元気を親を持つと、

かどうかが、とつとつ調子を崩し、それをきっかけに一挙にボケが進行してしまつたようだ。医療関係者に相談し、まず懇意の病院で「長谷川式簡易知能評価スケール」というボケ具合を測るテストをしてもらって、その診断結果をもとに市役所の担当者の面接の後、二九月ほどで要介護の認定がおりた。
これまで高齢問題や無縁社会とは無縁だとノホンとアウトサイダーを決め込んでいたのだが、ちょっととした体調不良で、高齢問題がいきなり自分の目の先に逃れられない課題になってしまった。
否応なく高齢問題とかかわること、良かれ悪しかれ日本の社会の持つ問題に関わらざるを得なくなった。そんな自分に少々戸惑いつつ、自分が老親の歳に近づきつつある現実を突きつけられている。絶え間なく起こる新鮮な社会体験に、いま毎日のように驚かされている。

(慧)

マイレージ、マイライフ

あなたの「人生のスーツケース」
詰め込みすぎているませんか?



©2010 Paramount Pictures. All Rights Reserved.

第163回

市民映画会



小さな命が呼ぶとき
「パパ、私の薬を作って」

上映時間(両日とも)		
マイレージ	①11:50	②15:55 ③19:55
小さな命	①13:55	②18:00

と き：2月9日(水)・10日(木)
と ころ：高知市文化プラザかるぼーと大ホール
料 金：一般前売り1,800円(当日1,500円)
割引(前売り・当日とも)1,000円
※学生証、長寿手帳、障害者手帳などをご持参の方は割引料金
※前売り券は、かるぼーとほか市内各アレイガイド、富士書房および指定のサニーマートで販売
※お問い合わせ：(財)高知市文化振興事業団
088-883-5071

今号の表紙

「初春」

一柳 早貴

暖かい太陽の光と力強い新緑を表現しています。
学校の帰り道で見た、庭先に咲いていた梅の花の美しさを思い出します。
冬の冷たさが少しずつ和らぎ、春が近づく日を感じて頂ければ幸いです。

(いちりゅう さき/
国際デザイン・ビューティカレッジ1年生)



高知を撮る

第26回写真コンテスト入賞作品

仮縫い

(平成21年5月3日 室戸市吉良川町)

吉村 文男

祭りの演目に参加する男衆の衣装を仮縫いします。

「彫らないで直接石に彩色し、何度も重ね塗りをして一枚の絵に仕上げた技法」わかったようなわからない説明は、若い頃、画廊でリトグラフ作品の取材をして書いた原稿である。直接石に彩色して写すの?多色刷りで色は混ぜられない?どう考えても彫らないで色を塗る版画の仕組みが不可解だった。そこでこの謎を解くべく、初心者対象のリトグラフ教室に参加してみることにした。

大人の学校



風俗歳時記

好きなことだけを学べるのは大人の特権でもある。学生時代、テストや受験で追いまくられ勉強嫌いだっただ人も、今だからできる「学び」にチャレンジしてみたいかがたらう。

性(版計画という)が必要。全ての過程が驚きと新鮮さに溢れていた。百聞は見にしかずである。
最近、社会教育、生涯学習が華盛り。文学や歴史、医療や教育の知識を広めるものから、飲食、調理、フラワーアレンジメント、ヨガやピラティスといった体験型のものまで様々な教室で大人たちが目を輝かせて学んでいる。特に県立施設や文化団体が主催するテーマ性のある教室は人気がある。今、建設に向けて大きく動き出している山内家資料を中心にした大歴史館建設構想の中でも、学べるスペースづくりは重要な位置づけとなりそうだ。

(立花香)

第21回

高知出版学術賞

推薦募集

優れた学術研究の振興は、

文化や出版の向上のみならず、広く高知県の発展に貢献します。

「高知出版学術賞」は、当該年における

最も優れた学術出版を顕彰することによって、

学術研究の振興を図ることを目的としています。

該当図書について、皆様のご推薦をお待ちします。

【対象】

次の事項をみたすもの。

- 1) 高知県内に在住する者の学術的著述、または、県外在住者で高知県に関する事項をテーマにした学術的著述。
- 2) 2010年(平成22年)1月1日から12月31日まで(奥付の日付による)に発行された単行本。

【推薦】

自薦・他薦を問いません。
必要事項を所定の推薦書に記入し、該当図書3部を添えて審査委員会へ提出して下さい。
(図書は、申し出により審査後に2部まで返却します。)
受付締切 1月30日(日)

【表彰】

3点以内とし、それぞれの著者または編者に賞状と賞金10万円を贈ります。
要綱・推薦書をご希望の方にはお送りします。

【推薦・お問い合わせ】

(財)高知市文化振興事業団 内
高知出版学術賞審査委員会 〒780-8529 高知市九反田2-1
電話 088-883-5071 e-mail kikaku@kfca.jp



第26回 「I LOVE 高知部門」準特選
野良時計の屋 竹村悦子

第27回

写真コンテスト

高知を撮る

作品募集

どなたでも、一人何点でも応募できます。出品料無料

応募締切

1月30日(日)

発表 3月上旬

過去から現在に至る高知県内の出来事や風景、人々のくらしを記録し、郷土の様々な表情を伝えるとともに、未来の高知のあるべき姿を考えていこうというものです。優れた作品は、入選作品展にてたくさんの方にご覧いただけます。

テーマ

●記録写真部門

記録性を持った高知県に関する写真
(撮影時期を問わず)

●I LOVE 高知部門

好きな高知の風景・風俗等を表現した写真
(1年以内に撮影)

応募先

- 高知市内各カメラ店
- (財)高知市文化振興事業団 (月曜休館)
〒780-8529 高知市九反田2-1
電話 088-883-5071

賞

特選 2点(賞状・賞金3万円)
準特選 10点以内(賞状・賞金1万円)
(各部門とも)

入選作品展

平成23年3月15日(火)~20日(日)
高知市文化プラザ 市民ギャラリー

- カラー・モノクロともにワイド四ツ切サイズ(254mm×365mm)以上
- 組写真は3枚までで、写真の順番と組写真であることを明記して下さい。

※前回まで「記録写真部門」については、発泡スチロールパネル貼りが必要でしたが、今回からパネル貼りは不要となっております。

詳しい応募要領は高知市文化振興事業団までお問い合わせ下さい。



第26回「記録写真部門」特選
流れた橋桁 宮村理生